

令和6年度 秋田きらり支援学校あきた型学校評価

評価領域

教育環境

① 重点目標 防災や感染症対策、医療的ケア等、安全・安心な教育環境の整備

P

② 現状

- ・医療的ケア生12名に対して学校看護職員7名で対応している。毎週末、医療的ケア担当、学校看護職員、養護教諭、副校長で情報共有と打合せを実施している。
- ・昨年度、スクールバスでの校外学習を希望する医療的ケア生一人一回、9名が実施した。
- ・緊急時は医療療育センターへの搬送が多いため、例年、医療療育センターへの搬送を想定した緊急時対応訓練を実施している。

③ 具体的な目標

- ・スクールバスでの校外学習を希望する医療的ケア生に対して、学校看護職員が同行し一人二回まで、安全に実施する。
- ・医療療育センターへ搬送できない場合を想定した緊急時対応訓練を実施する。

④ 目標達成のための方策

- ・事前に同行予定の学校看護職員を含む関係者で、校外学習校内検討会を実施する。
- ・救急車要請を想定した緊急時対応訓練を実施し、全校で周知する。

⑤ 具体的な取組状況

- ・医ケア生が参加予定のすべての校外学習について校内検討会を実施し、日程中の医療的ケア実施の時間や場所、緊急時のスクールバスの停車場所等を確認した。協議した内容について、当日まで再確認や変更して対応した。
- ・実際の児童生徒の実態に即した想定を考え、発見から救急車が到着するまでの一連の行動を確認しながら、緊急時対応訓練を実施した。

D

⑥ 達成状況

- ・スクールバスでの校外学習を希望する医療的ケア生11名中9名（2名は当日欠席）、計12回実施した。いずれも安全に実施できた。
- ・学部ごとに分かれて計3回、救急車要請の緊急時対応訓練を実施した。

D

自己評価

(評価)	(根拠)
A	・学校看護職員を交えて事前に十分に検討したことで、校外学習当日は安全に医療的ケアを実施でき、児童生徒の社会経験の拡大につながった。 ・学部に分かれて緊急時対応訓練を実施したことで、救急車要請の手順や役割分担等を確認し適切に対応することができた。全職員、学校看護職員で共通理解できた。

C

評価基準

↑ A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない

↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑦ 学校関係者評価と意見

(評価)	(意見)
A	・医療的ケア児への対応など、校内における危機管理体制がきちんと整備されている。 ・児童生徒の下校後や休日の避難対策などの把握を検討してほしい。

C

⑧ 自己評価・学校関係者評価に基づいた改善策

- ・校外学習中にスクールバスを停車して医療的ケアができる場所を増やせるよう、来年度に向けて調整する。
- ・医療的ケア児が休日中に被災した際の避難先の把握、下校できない場合を考えた夜間のケア内容や必要物品の確認を進める。

A

令和6年度 秋田きらり支援学校あきた型学校評価

評価領域

センター的機能

①	重点目標	病弱教育サポートセンターを含むセンター的機能の拡充		P
②	現状	・病弱教育アドバイザー及び教育専門監、地域支援部員・病弱教育サポートセンターきらり*のスタッフが担当している。 ・小・中学校特別支援学級設置校への訪問や高等学校への訪問、秋田市内病院での学習支援等を実施している。		
③	具体的な目標	・秋大医学部附属病院と連携しながら、病弱教育のセンター校としての役割を担う。 ・県内各校や関係機関との連携を図り、肢体不自由及び病弱の児童生徒への支援の充実を図る。		
④	目標達成のための方策	・今年度、秋田大学医学部附属病院に開設した「サポートルームきらり」について関係機関と連携し、短期入院児への支援体制を構築する。 ・特別支援学級設置校訪問や特別支援学級担任とのオンラインミーティング「きらりサロン」を通して、ネットワークをつくり、ニーズに応じた支援を行う。		
⑤	具体的な取組状況	・病棟師長との情報共有、医療カンファレンス（週1回）への参加ができるようになり、医療関係者と連携して短期入院児への支援を行うことができた。 ・年度初めに県内肢体不自由、病弱特別支援学級設置校に本校職員の訪問希望を確認するとともに、各校の特別支援学級の状況等を把握した。		D
⑥	達成状況	・秋田大学医学部附属病院での学習支援は、45名366回（1月末現在）実施した。（他病院での学習支援は20名89回） ・設置校訪問（小・中学校）27校28回、「きらりサロン」（オンライン）6回実施した。また、高等学校訪問19校、市町村教育委員会訪問25カ所、相談支援34カ所35回を実施した。		D
⑦	自己評価	（評価） A	（根拠） ・病院と連携して「サポートルームきらり」での短期入院児への支援を実施し、多くの児童生徒、保護者から好評を得ることができた。 ・ニーズに応じた情報提供、情報共有を行うことができ、相手校からの相談依頼が増えた。	C
↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑧	学校関係者評価と意見	（評価） A	・関係機関、学校と連携して支援が必要な子どもへの対応にあたり、児童生徒にとってより良い環境を作るよう積極的に活動している。 ・病院との連携を更に進めるとともに、地元校の更なる意識醸成に期待する。	C
⑨	自己評価・学校関係者評価に基づいた改善策	・たくさんの支援要請に応えられるよう校内体制を検討するとともに、児童生徒の在籍校、県内の支援学校との連携を図り、支援の仕方等を整理していく。 ・本校のセンター的機能の専門性を高められるよう、校内への情報提供や地域支援部以外の設置校訪問等への同行等を継続して実施する。		A